

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価 (及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

長久手市地域公共交通会議 (長久手市)

平成20年11月25日設置

平成31年3月 第2次長久手市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：令和元年度～令和5年度)

令和4年6月 令和5年度事業分フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和6年1月 令和5年度評価結果送付

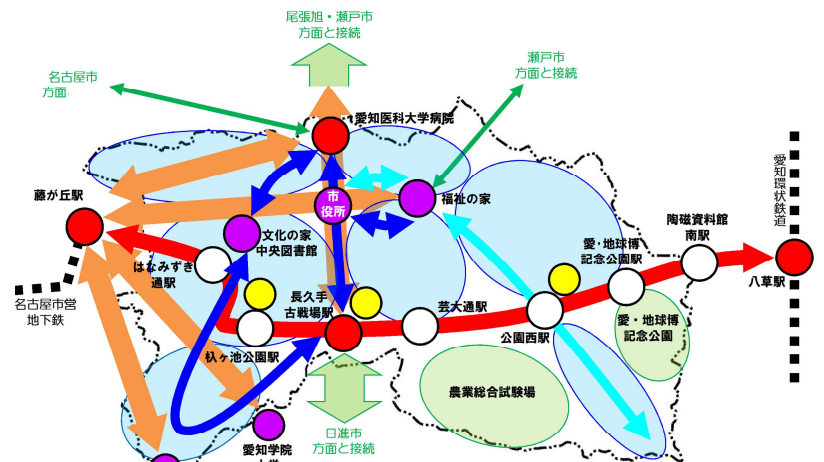
1. 【Plan】 協議会等を目指す地域公共交通の姿

【長久手市の地域特性】

- ・市の中心を東西方向にリニモ、市西部を中心に民間の名鉄バスが路線網を形成。
- ・市営のコミュニティバス（N-バス）が市内を面的にカバー。
- ・大型商業施設の開業や交通結節点の整備に伴い、新型コロナウイルス感染症の拡大以前までは交通利用者は増加傾向で推移。

第2次長久手市地域公共交通網形成計画 (2019(R1)年3月策定)

- 1) 期間
2019(R1)年度～2023(R5)年度
- 2) 将来像
みんながつながり笑顔があふれる公共交通
- 3) 基本方針
 - ① 各公共交通の連携
 - ② まちの変化への対応と持続性の確保
 - ③ 多様な移動ニーズへの対応
 - ④ 利用促進による維持・活性化
- 4) 目標
 - ① 市内公共交通の利用者数の増加
 - ② 市内公共交通の利便性の向上
 - ③ 効率的な公共交通の確保
 - ④ 公共交通に対する満足度の向上
 - ⑤ 公共交通に対する市民意識の向上



N-バス路線と補助対象	
中央線 (右回り・左回り)	補助対象路線 (市内幹線)
西部線 (右回り・左回り)	補助対象路線 (市内幹線)
藤が丘線	(地区内路線)
東部線	(地区内路線)
三ヶ峯線	補助対象路線 (地区内路線)

- 都市間幹線 (リニモ)
- 都市間幹線 名鉄バス (路線バス)
- 市内幹線 (N-バス) ※補助対象路線
- 地区内路線 (N-バス) ※補助対象路線
- 地区内路線 (N-バス) のカバー範囲
- 隣接市との接続 (コミュニティバス)
- 隣接市との接続 (路線バス)
- 交通結節点
- 主要な施設
- リニモ沿線の主要商業施設
- リニモの駅
- 農有地
- ※施設規模が大きく、農有地であることから、地区内路線のカバー範囲の対象外としている。

実施事業	概要	実施結果	結果考察・今後の展開
公共交通に関する市民アンケート調査の分析	<ul style="list-style-type: none"> R4年度実施の市民アンケート調査を分析。公共交通に対する課題を把握 R5年度策定の長久手市地域公共計画へ反映 	<ul style="list-style-type: none"> 各公共交通を利用しない理由に「どのように走っているか知らない」ためと回答した割合が鉄道よりもバスの方が多かった（リニモ1.6%、名鉄バス16.7%、N-バス19.4%） 5年前の調査時より「デマンド型交通の運行」を望む割合が多くなった（H29 43.2%、R4 63.6%） 	<ul style="list-style-type: none"> デマンド型交通に対する意識の変化の要因には、高齢化の進行に伴う移動困難者の増加やコミュニティバスの路線やダイヤと移動ニーズの不一致などがあると考えられる 分析結果を公共交通計画において現況課題として定め、解決に向けた取り組みを検討する
公共交通利用促進	<p>市民主体で構成する「公共交通応援隊」による利用促進活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> R4年8月に、市内6児童館にて、小学生を対象に公共交通の啓発を行う「長久手のりもの講座」を開催し、222人が参加 R5年3月に市内公共交通の活性化を目指して、作成している情報紙（長久手公共交通かわら版「のりゃあせ」11号）を発行 	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケート結果において、「公共交通利用を第一に考える」人の割合が増加傾向にある 公共交通の利用促進のため、今後も当団体の活動支援を継続する
N-バスに関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> N-バスの利用実態把握のため調査を実施 環境負荷に配慮した持続的な交通手段の検討 	<ul style="list-style-type: none"> R4年度は3回（7月、11月、3月）調査を実施（大同大学と共同研究） 各路線とも市役所⇄福祉の家間の利用が少ないこと、R3年度の再編以降、市東部の利用率が低下傾向にあること等が分かった 小型電気（EV）バスの導入検討 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての路線を福祉の家に接続する意義や、人口密度の低い市東部における地域に合った運行形態について検討する必要がある 小型電気（EV）バスについては、R6年4月に既存のN-バス車両1台を更新する形で導入を予定

「のりゃあせ」第11号▶

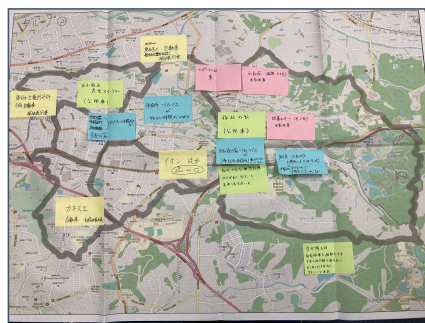


導入予定のEVバス車両▶



実施事業	概要	実施結果	結果考察・今後の展開
長久手市公共交通計画策定に向けた取り組み	<p>R6年度以降を計画期間とする長久手市地域公共交通計画の策定に向け、「長久手市地域公共交通会議」や、庁内関係各課で構成する「公共交通ネットワーク調査研究会」を開催し、横断的な意見交換を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> R5年度は会議と研究会を各5回開催 R5年度からの公共交通会議は、地域の移動資源との連携を深めるため、新たに福祉有償運送関係者を委員に任命 デマンド交通等、新たな交通手段の導入検討について、公共交通計画の素案に記載 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通以外の市内移動資源との連携についても計画内で位置づける必要がある 公共交通計画では市民アンケートやワークショップの結果分析を踏まえ、市内を東西に分けて地域特性に合った公共交通ネットワークの検討や利用促進の充実を検討する方向性を定める
公共交通に関する市民ワークショップの実施	<p>市内公共交通に関する市民意見を収集するため市民ワークショップを実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> R5年8月に各地域の声を聞くため、3つの中学校区で各1回ずつ開催した 参加者は56人 	<ul style="list-style-type: none"> バスは運行本数や経路といったサービス水準、リニモでは駐車場整備など施設整備に関する点について改善の余地がある 利便性向上のため、公共交通間の乗継の改善や交通弱者への移動支援、乗合タクシーの導入などを行う必要がある

市民ワークショップの実施状況▶



【第2次 長久手市地域公共交通網形成計画の評価の考え方】

- ・ 網形成計画で取組む事業の評価は、長久手市地域公共交通会議で審議
- ・ 公共交通の利用実績で把握する評価指標は2023年3月時点での数値を評価
- ・ 公共交通利用者数の経年変化は、交通事業者の実績報告で経年変化を把握
- ・ 市民に対するアンケート調査で把握する評価指標については、計画期間終了前年の2022年度にアンケート調査を行い評価

【第2次 長久手市地域公共交通網形成計画の評価指標と目標】 ※1年度を4月から3月として実績を算出

▼下記の公共交通利用者に関する指標は、毎年の利用実績により目標値の状況を把握できることから、直近5年間の利用実績の推移を比較し、R4年度実績を評価する。

評価指標	目標	実績と達成状況					考察
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
市内各公共交通の利用者数	・リニモ : 4,390,000 人/年	・リニモ : 4,090,000 人/年	・リニモ : 4,061,000 人/年	・リニモ : 2,335,000 人/年	・リニモ : 3,050,000 人/年	・リニモ : 3,755,000 人/年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス拡大の影響に伴いN-バスの利用者数のR4年度実績は、目標の約半分に留まった ・ リニモ、名鉄バスについてはR4年度実績も回復傾向が見られた。 ・ N-バスについては、R4年度より、65歳以上の運賃有料化を実施した影響から、利用者数が減少傾向のままとなっている
	・名鉄バス : 794,000 人/年	・名鉄バス : 833,000 人/年	・名鉄バス : 838,000 人/年	・名鉄バス : 497,000 人/年	・名鉄バス : 608,000 人/年	・名鉄バス : 728,000 人/年	
	・N-バス : 271,000 人/年	・N-バス : 260,513 人/年	・N-バス : 225,010 人/年	・N-バス : 152,334 人/年	・N-バス : 137,341 人/年	・N-バス : 132,734 人/年 (未達成)	
N-バスの1便当たり利用者数の増加	・N-バス : : 11.4人/便	・N-バス : : 9.8人/便	・N-バス : : 9.3人/便	・N-バス : : 6.3人/便	・N-バス : : 9.8人/便	・N-バス : : 9.5人/便 (未達成)	・ 同上

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

▼下記の評価指標に関してはR4年度に実施した市民アンケート結果より評価する。

評価指標	目標	前回調査 (H29) 時	実績と達成状況	考察
・ 各公共交通の利用している人の割合の増加	<ul style="list-style-type: none"> ●リニモ : 57%以上 ●名鉄バス : 37%以上 ●N-バス : 25%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ●リニモ : 54.0% ●名鉄バス : 34.5% ●N-バス : 22.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ●リニモ : 62.7%(達成) ●名鉄バス : 38.7%(達成) ●N-バス : 23.1%(未達成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス拡大の影響に伴う高齢者の外出自粛が影響していると推察
・ 隣接市コミュニティバスと接続していることの効果の向上	・ 60%以上	・ 54.1%	・ 82.3%(達成)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通マップやN-バス路線図等での情報提供が影響していると推察
・ 公共交通を便利にする取組の満足度の向上	・ 25%以上	・ 19.7%	・ 22.1%(未達成)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス拡大の影響やR4年度以降の65歳以上の運賃有料化が影響していると推察
・ 公共交通利用を考える意識の向上	・ 25%以上	・ 22.1%	・ 26.9%(達成)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通を周知する活動の持続が影響していると推察
・ 各公共交通を利用しない理由で「バスがどのように走っているかわからない」という回答割合の減少	<ul style="list-style-type: none"> ●名鉄バス : 20%未満 ●N-バス : 20%未満 	<ul style="list-style-type: none"> ●名鉄バス : 24.5% ●N-バス : 28.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ●名鉄バス : 16.7%(達成) ●N-バス : 19.5%(達成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通を周知する活動や、公共交通マップ、N-バス路線図等での情報提供を持続的に実施したことが影響していると推察

■【生活交通確保維持改善計画(フィーダー系統)の評価の考え方】

- ・フィーダー系統の補助を受けているN-バス路線の利用状況を評価
- ・評価対象の実績はR5年度（R4年10月～R5年9月）を今年度の実績、R4年度（R3年10月～R4年9月）を前年度の実績として評価
- ・N-バス全路線の目標は参考として算出。評価指標は第2次網形成計画における目標値として評価

【生活交通確保維持改善計画の評価】

路線名	フィーダー系統	R3.10月～R4.9月分実績	R4.10月～R5.9月分実績	目標値・評価
N-バス全路線		利用者数：134,432人/年 1便当たり：9.7人/便	利用者数：138,718人/年 1便当たり：10.0人/便	第2次網形成計画における目標値 利用者数：271,000人/年 未達成 1便当たり：11.4人/便 未達成
中央線（右回り）	○	利用者数：23,827人/年 1便当たり：10.4人/便	利用者数：25,854人/年 1便当たり：11.3人/便	利用者数：24,000人/年 達成 1便当たり：10.4人/便 達成
中央線（左回り）	○	利用者数：21,739人/年 1便当たり：11.3人/便	利用者数：22,895人/年 1便当たり：11.9人/便	利用者数：21,000人/年 達成 1便当たり：10.8人/便 達成
西部線（右回り）	○	利用者数：22,579人/年 1便当たり：11.7人/便	利用者数：22,888人/年 1便当たり：11.9人/便	利用者数：20,000人/年 達成 1便当たり：10.3人/便 達成
西部線（左回り）	○	利用者数：23,297人/年 1便当たり：10.2人/便	利用者数：24,270人/年 1便当たり：10.6人/便	利用者数：22,000人/年 達成 1便当たり：9.6人/便 達成
三ヶ峯線	○	利用者数：19,295人/年 1便当たり：11.5人/便	利用者数：18,327人/年 1便当たり：10.9人/便	利用者数：19,000人/年 未達成 1便当たり：11.2人/便 未達成

<達成状況についての考察>

- ・生活交通確保維持改善計画（令和5年度事業分）では65歳以上の運賃有料化及びコロナウイルスによる外出自粛の影響を考慮した目標値を設定した。三ヶ峯線については、高齢者が多い地域を中心に運行している点から、上記の影響が大きく、目標達成に至らなかったと考えられる。

<対応方針>

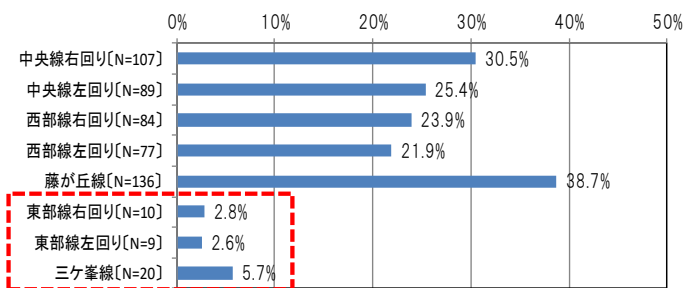
- ・運賃有料化に対する理解が得られるよう、情報提供を継続するとともに、アンケートおよびワークショップの結果から課題を分析し、長久手市地域公共交通計画へ反映させる。

【アンケート調査、ワークショップの結果に基づく評価】

地域公共交通計画策定のため、R4年9月から10月にアンケート調査、R5年8月にワークショップを開催した。三ヶ峯線の利用が少ないことに加え、市民の公共交通に関する意識について把握できた。

(1) N-バスの路線別利用状況

- 東部線と三ヶ峯線の利用割合が極めて少ない。

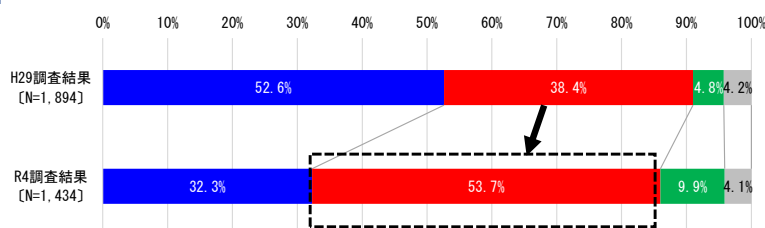


(3) 公共交通を利用しないの上位理由

- リニモ
：「駅までが遠い」
「運賃が高い」
- 名鉄バス・N-バス
：「運行本数が少ない」
「乗りたい時間に運行していない」、
「どのように走っているか知らない」

(2) 市内を移動しやすくするために必要なサービス

- 利用者が多い地域はN-バス、少ない地域はデマンド型を望む回答が増加



(4) 市民ワークショップ

「普段の移動に関する困りごと」

- リニモ：駐車場整備や駅までの遠さなど立地、施設整備に関連する意見
- 名鉄バス・N-バス：運行本数やルート、乗換の不便さなどサービス水準に関連する意見

「公共交通をより使いやすくする案」

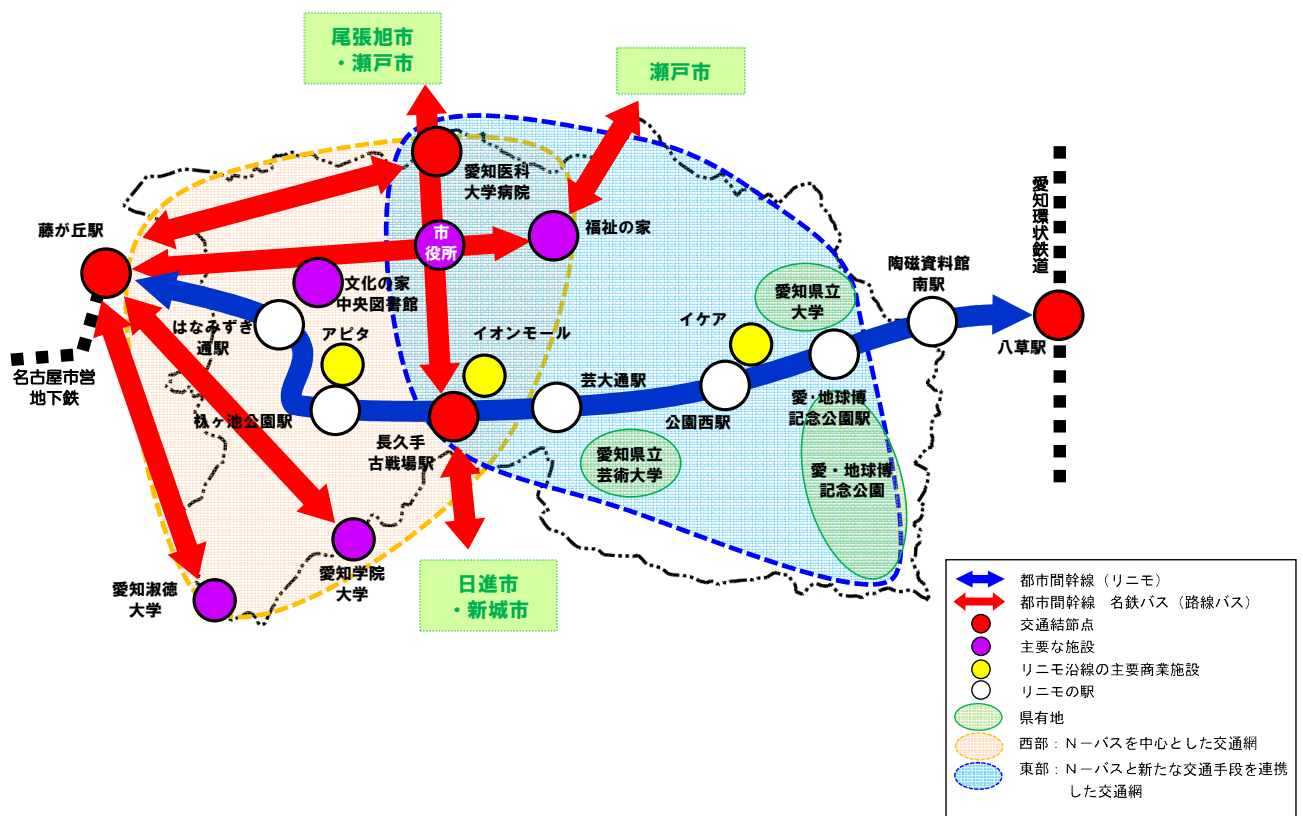
- 他の交通手段との乗継性の向上
- 乗合タクシー（デマンド型交通）の導入
- 交通弱者への移動支援の充実

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>N-バス利用者（年間利用者数・1便当たりの利用者数）はコロナウイルスの影響およびR4年度からの65歳以上の運賃有料化により利用者数が減少したと考えられ、目標には達していない</p> <p>また、公共交通に対する満足度は前回調査時より向上しているものの、計画の目標値には達していない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● N-バスの運行本数、運行ルートや乗り継ぎの不便さに関して不満である割合が高いことから、利用目的やニーズをアンケート及びワークショップ結果より分析し、路線再編に向けて運行形態の見直しの検討を行う ● 市内の一体的な公共交通網を実現するため、R5年度策定中の地域公共交通計画において、乗継性の向上など他の交通手段との連携や新たな移動手段の導入検討を目標・取り組む事業として位置づけ、計画期間であるR10年度までに取り組むを行う
<p>隣接市のコミュニティバスと接続していることへの効果、また、公共交通への利用意識や運行状況への認知度は前回調査時より向上し、目標値を達成した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も情報紙の発行や公共交通マップの掲載等、市内外に向けて公共交通に関する情報発信を継続実施する ● 公共交通計画において、「利用促進に関する市の取組の拡大」を目標値として新たに設定し、経年的な評価を行うことで更なる市民意識の向上を図る

4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針

【地域公共交通計画（R6.4～）で目指す市の公共交通ネットワークの将来像イメージ】

- 市西部→公共交通網が充実しているため、利用促進を重点的に強化
- 市東部→デマンド導入等、地域ニーズに沿った公共交通ネットワークの改善を検討



年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
令和4年度評価分※	N-バス利用者への継続した情報提供とともに、アンケート結果の分析から移動の変化の実態等の把握を進め、利用者にとってより良い公共交通になることを期待	アンケートの分析結果から得られた課題を基に、R6年以降の長久手市地域公共交通計画における市の基本方針や取り組みにおいて整理した。	移動ニーズの変化や公共交通利用の課題点を計画に反映し、課題解決に向けた取り組みを明確化する。
	地域間幹線系統である愛知医科大学病院線について、関係者が連携して、新たな利用者獲得に向けた利用促進等を行うことの期待	N-バスと重複する区間があることを課題として地域公共交通計画素案に記載した。	名鉄バスとの協議も進め、各役割を意識しながら、N-バスの路線見直しの際に検討する。 今後も関係者と連携しながら、利用促進を進める。
	地域公共交通計画策定に際して、地域間幹線とそれに接続する支線に対する役割分担を整理し、各路線の補完、充実を意識した計画検討を期待	長久手市地域公共交通計画では市内交通手段の役割を明確にしたうえで、公共交通網の確保を検討する方針を示した。	路線見直しや新たな移動手段の導入の検討について、それぞれの役割を意識して事業に取り組む。

※前回：令和5年3月10日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
令和3年度評価分※	引き続き各種調査等により利用者の意見や動向を注視、分析し、より良い利用者利便の追求が行われることと、N-バスの高齢者有料化については、引き続き丁寧な周知がなされることの期待	市内公共交通に対する市民の意識やニーズを把握するため、R4年度に公共交通アンケートを実施した。 市職員によるN-バスの利用実態調査とヒアリング調査を実施した。 N-バスの65歳以上の有料化（1乗車100円）の実施と、それに伴う運賃負担軽減のため、フリーパス券と回数券を導入し、市ホームページや広報紙で周知した。	公共交通アンケートの結果を受けて、地域特性や市民の移動ニーズに合わせた公共交通体系の構築に向けて検討を行う。 R5年度に策定している地域公共交通計画の中でも、上記の方向性を基本方針としている。
	地域間幹線系統である愛知医科大学病院線について、関係者が連携して、新たな利用者獲得に向けた利用促進等を行うことの期待	R4年8月には名鉄バスと連携し、先述の「ながくて乗り物講座」にて、実際の車両を用いた乗り方講座を実施するなど、利用促進に取り組んだ。	今後も関係者と連携しながら、利用促進を進める。

※前々回：令和4年3月10日

【年間単位の評価スケジュール】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
公共交通会議		①		②			③		④			⑤
取組内容	今年度取組事業の検討	→ (P)							→ (C)			
	アンケート分析	→ (C)		→ (A)			→ (C)		→ (A)			
	地域交通計画への反映		→ (A)			→ (D)		→ (C)		→ (A)		
	ワークショップ準備		→ (P)		→ (D)		→ (C)		→ (A)			
	実施			→ (D)		→ (C)		→ (A)				
集計・分析						→ (C)		→ (A)				
計画策定に向けた課題・ニーズ抽出								→ (C)		→ (A)		
利用促進	→ (D)											
長久手市地域公共交通計画策定	→ (D)											
研究会（庁内部会）		①		②		③		④			⑤	

【地域公共交通会議の実施状況】

第61回会議(令和5年5月23日) 主な議題:令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の協議
市民アンケート分析結果の報告

第62回会議(令和5年7月25日) 主な議題:長久手市地域公共交通計画の骨子案についての協議

第63回会議(令和5年10月3日) 主な議題:長久手市地域公共交通計画の素案抜粋版についての協議